



# 一般ごみ排出量4年連続減

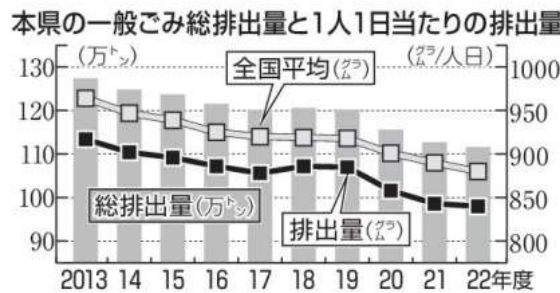
## 22年度 11万5000トン 3R普及

環境省が実施した一般廃棄物処理事業実態調査によると、2022年度の本県の一般ごみ総排出量は約11万5千トン（21年度比1・1％減）で4年連続減少した。県民1人1日当たりの排出量は840㌔（0・4％減）で、全国平均の880㌔を下回った。都道府県別では前年度に続き全国7位の少なさだった。

## 1人当たり掛川市最少

1人1日当たりの排出量を県内市町別で見ると、人口10万人以上は掛川市の615㌔が最も少なく、藤枝市668㌔、富士市753㌔と続いた。10万人未満では菊川市632㌔、森町668㌔、長泉町693㌔の順で少なかった。掛川市は10万人以上50万人未満の全国自治体の中で2位（前年度1位）、藤枝市は10位（同5位）の少なさだった。

埋め立てに回る最終処分量は4万7千トン（21年度比2・5％減）。1人1日当たりの最終処分量は35・6㌔（1・7％減）だった。県廃棄物リサイクル課によると、3R（減量、再使用、再生）が普及し、一般ごみの総排出量は減少が続いている。20年度以降は新型コロナウイルス禍に伴う消費の低下により、減少傾向がより顕著になったが、担当者は「コロナ禍明けの反動が23年度に出ないか注視する必要がある」と指摘し、3Rの一層の徹底を呼



びかけたとしている。一方、産業廃棄物処理業者などの報告を基にした県の実態調査によると、産廃の総排出量は940万8千トン（1・3％減）。建設業のがれきりや製造業の汚泥の減少が目立った。再生利用率は44・1％で、前年度より0・2ポイント低下した。最終処分量は23万2千トン（1・9％増）だった。  
(政治部・豊竹喬)

記事を読んで、問いに答えましょう。

①静岡県の一般ごみの排出量はどのように変化していますか。

(例) 4年連続で減少している。

②全国的に見て、静岡県の一般ごみの排出量にはどのような傾向がありますか。

(例) 県民1人1日当たりの排出量は全国平均を下回り、都道府県別では全国7位の少なさになっている。

③一般ごみの排出量の減少は何に関係していると考えられますか。

(例)

- ・3R（減量、再使用、再生）が普及してきたこと。
- ・新型コロナウイルス禍に伴う消費の低下。 など

④一般ごみを減らしていくために、あなたにできることは何ですか。30字以内で書きましょう（句読点を含みます）。

(例)

- ・まだまだ十分でない3Rへの意識を高め、徹底して行うこと。（28字）
- ・一般ごみの排出量に関心を持ち、その変化を確かめていくこと。（29字）など

年 組 名 前